
憧れた人～出会い、その後～

ふるーつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

憧れた人へ出会い、その後へ

【Nコード】

N8305E

【作者名】

ふるーつ

【あらすじ】

コミックス62巻を読んで、なんか無性に書きたくなった話？です。妄想100%の裏話です。思いつきりネタバレな上、原作読んでなければ意味不明だと思います。ご注意ください。

（前書き）

重ねて注意しますが、コミックス62巻の妄想裏話です。ネタバレです。

彼は、瞬間固まった。

村人に知られてはいけない、父親から受け継いだ役目がばれたその驚きは確かにあった。

しかし、目の前にいる少年に対する驚きのほうが、はるかに大きかった。

女優だった母譲りらしい、憎らしいほどに整った顔はすでに見慣れている。しかし、それは自分の側だけの話。……「崇拜してんのね」と友人にからかわれるほどに憧れた、そこにいたのは工藤新一だった。

少年のほうは、別段驚いた様子もなく、くすつと笑った。

「初めまして、あなたが死羅神様しらかみさまだったんですね。僕は工藤新一、探偵です」

「し、知ってます。僕、工藤君の大ファンですから！僕、屋田誠人です！」

死羅神様の衣装をぜんぶ脱ぐのも忘れて、誠人は夢中で彼に駆け寄った。

「工藤君が捜査協力してくれるって話は聞いてます！あなたならきっと、村長と奥さんを殺した犯人を捕まえてくれますね！」

そして、ふたりは山をおりた。もちろん、死羅神様の衣装はちゃんと脱ぎ、山小屋に隠して。

あの高校生探偵・工藤新一が強盗殺人を捜査するという話は、すでに村中に知れ渡り、下山と同時に新一は交番に招かれた。

早速現場に向かおうとする新一を、誠人は思い切って呼び止めた。

「あ、あの、工藤君！」

「はい？」

「よ、よかったら、僕にも協力させてもらえませんか？」

これだけの事を言うのに、ありえないほど息が切れた。 新一は、引き締めた顔に微笑を浮かべた。

「そうですね、お願いします。村長一家の一員であるあなたに協力してもらえれば、解決も早められるでしょうし」

誠人は感激し、文字通りあくせく動いた。……ただ、彼があの惨劇の場のどこに「強盗殺人」の矛盾を見つけ、まったく別の結論にいたったかは、全くわからなかった。

思えば、誠人はすでにどこか浮かれていたのかもしれない。あるいはその時点で、彼にもっと張り付き、詳しく状況を聞くべきだったのかもしれない。

そうすれば、彼が去ったあとで驚愕の真実に打ちのめされ、逆に彼自身をおとしめようなんて考えなかっただろう。

「あの衣装は、元通りあの山小屋に戻しておきますから」

新一は、自分と同じ造作の、しかしまったく血の気が失せた顔に微笑んだ。

本当はちゃんと「持ち主」として返却したいが 公の記事にはならないとはいえ、傷害事件を起こした以上、しばらく「死羅神様」は休業だ。

「……僕のこと、怒ってないんですか？」

うつむいたまま顔を上げない彼の声は、ほとんど聞こえないくらいのか細いものだった。新一は苦笑した。

「……1年前、僕もきちんと説明するべきでしたから。尊敬していた村長の汚名に、納得できなかったのは無理もないですよ。それに幸い、死者も出ませんでしたし」

「……………」

誠人はようやく新一の顔を上げた。……泣きはらした目。しかし、彼はゆっくりと口許をゆるめた。

「……工藤君、あなたはやっぱり、僕が思っていたとおりの探偵です。本当に、申し訳ありませんでした」

そういつて、深々と頭を下げた誠人を背に、5人は歩き出した。

まさか、その後また、厄介な事態が頻発することになるとは思わ
ず。

（後書き）

なんか新巻読んで、無性に書きたくなりました。最近小説書いてなかったのもあるけど。

1年前の誠人君の気持ち、めっちゃわかる！とか思いつつ書きました。滅多に見られない新一の表情を見せてくれた彼に感謝せねば（泣き顔とか皮肉っぽい顔とか）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8305e/>

憧れた人～出会い、その後～

2010年10月15日22時59分発行